

編集後記

日本医史学雑誌 第64巻1号をお届けいたします。坂井建雄理事長より町泉寿郎編集長に編集委員会が引き継がれました。投稿原稿の、査読、採用、掲載が順調に進んでいることは投稿、査読の会員のご協力があったることと感謝いたします。投稿原稿で査読の必要な区分の原稿には、可能な限り早期に査読意見をいただくようにしております。その後の改訂稿がなかなか届かない投稿が散見いたします。査読意見を全面的に受け入れることが困難な場合も学術論文においては当然あり得ることでもあります。編集委員会はそのような点は十分に検討して採用し掲載の方針をとっております。どうぞ本学会のように学際的、そして、深い専門家の属した学会の会誌としてますます充実するように投稿の増えることを期待します。

本学会が中心となり、毎年12月の例会を六学会合同例会として、順天堂大学を会場として開催しております。平成29年は洋学史学会を幹事学会として、12月16日(土)に行われました。複数の学会の会員の方もおられると思いますが、医療に関わる歴史を研究するものの交流の場として、毎年の参集を楽しみにしておられる方も多いと思います。多忙な師走の会でありながら全国からの出席者がありましたことを感謝報告いたします。

洋学史学会から片桐一男「シーボルト事件で罰せられた三通詞」、日本薬史学会から伊藤美千穂「シソの古典的記述から」、日本獣医史学会から唐仁原景昭「犬の狂犬病頭数の消長と撲滅までの社会的要因分析」、日本歯科医史学会から北野元生「西東三鬼と平畑静塔らの戦争俳句—治安維持法との関わりについて」、日本看護歴史学会から鈴木紀子「陸軍看護制度の成立過程～橋本綱常の上申を中心に～」、日本医史学会から町泉寿郎「自筆資料から見る曲直瀬道三の医学と医療」の発表がありました。その発表内容を本誌に例会抄録として掲載いたしました。大変に興味深い、専門領域を超えた歴史を研究される演題を聞くことが出来ました。発表者の方々の研究と、それぞれの学会の発展を期待する次第です。自由な研究者の交流が深まる機会が続き、参集される方より増えることを願っております。

(渡部 幹夫)